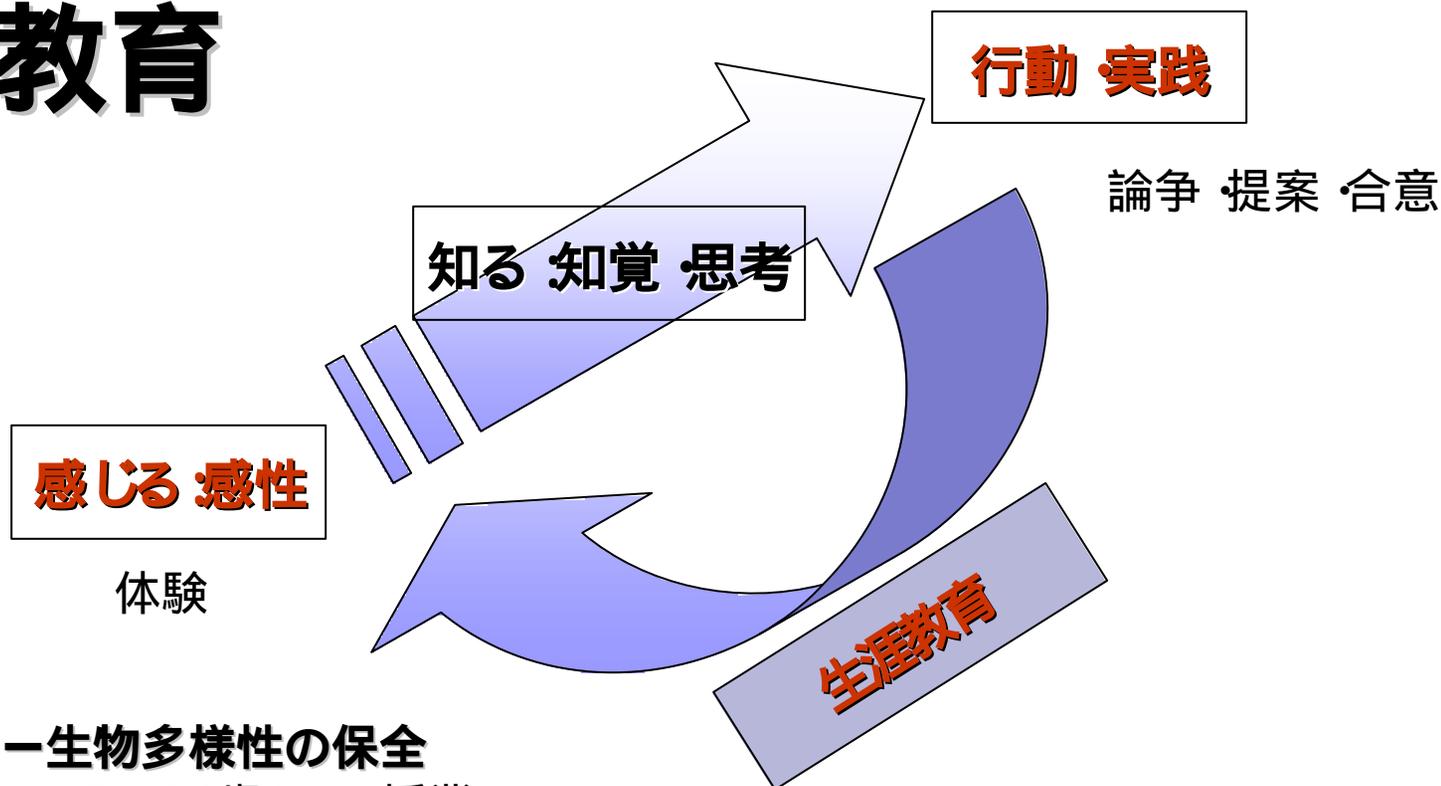


# 生きものの教育の 現状と課題

阿南高専 建設システム工学科  
大田 直友

# 環境教育



## 現在の活動—生物多様性の保全

1. 阿南高専 (15 - 20歳)での授業  
環境生物学、環境系実験
2. 市民講座、市民団体への講演
3. 小中高での講演
4. 地域連携として小・中学校における総合学習支援
5. NPO徳島保全生物学研究会での環境教育のとり組み

# 生きもの教育とは？ = 生態系の保全

- 生物多様性・生態系サービス
  - ヒトの生存基盤

- 生命の大切さ・はかなさ・ぬくもり

- 体験を伴う教育 (見る聞く触る臭う味わう)

- 都市生活で見失った自然とのつながり認識

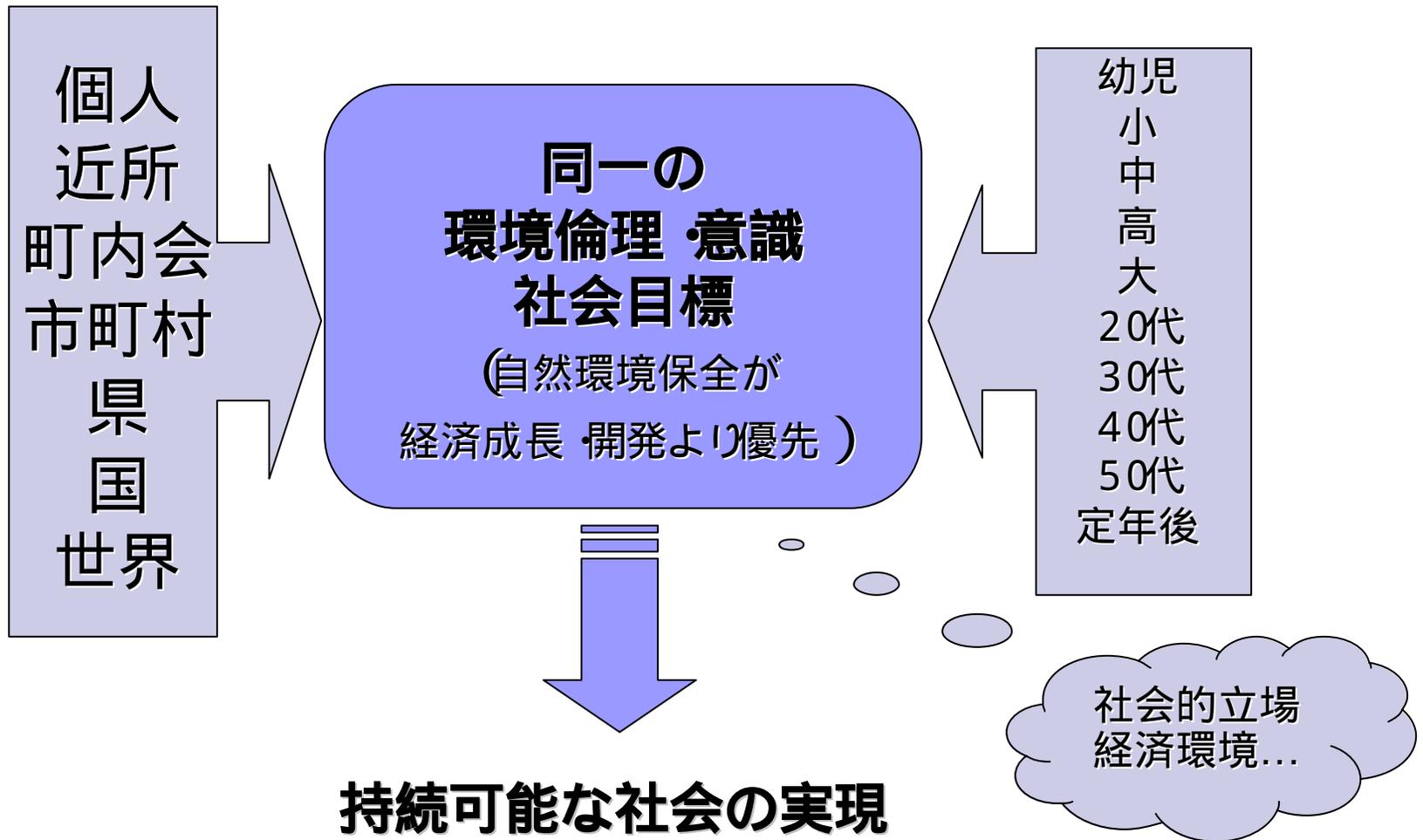
## 生態系サービスとは？

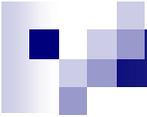
気候の制御  
水循環・大気組成の維持  
水と空気の浄化  
汚染物質の無毒化  
必須栄養素の貯蔵と循環  
紫外線からの保護  
害虫雑草の防除・作物受粉  
感動・癒し

# 各分野での印象

- 1. 阿南高専での授業
  - 判で押したような模範？ 解答
  - 頭と行動の不一致 体験不足？
- 2. 市民講座、市民団体への講演
  - やる気のある一部の市民
  - 横のつながりの欠落
- 3. 小中高での講演
  - やっつけ仕事ー知識・意識不足
  - 教員、管理職のやる気依存
- 4. 地域連携として、小学校、中学校における総合学習支援
  - やる気のある教員の発掘
  - 学校教員への支援不足
- 5. 社会構造とエゴ
  - 都市生活、貨幣社会により自然を感じる事が出来ない仕組み
  - 企業の目的 = 経済的成功 環境保全
  - 社会に出ると環境意識の低下 経済論理優先

# コミュニティースケールや年齢による 環境保全意識のずれ





# 生きもの教育に必要なもの

- 教育目標と計画

- 生態学的に正しい知識と中長期的視点
- 評価可能なもの

- 時間

- 受験（詰め込み学習）仕事（経済的成功）  
環境は問題は二の次

- 予算

- 継続させる動機づけ

- 外部との交流、発表会、成果の評価、褒美



# 課題の解決へ

- 目的と評価
  - 目的の明確化ー徳島県として教育方針・目的
  - 客観的評価および方向修正
- 統一性のある取り組み
  - 長期的な目的意識の欠落ー継続の重要性 (小中高)
- 情報の一元化・横のつながり・舵取り
- 助成金
- 成果を発表する場～シンポジウム
- 教員の能力が成否に～学校教育
  - やる気のある教員の支援ー予算 時間的
  - 教員と専門家をつなぐ組織ー積極的なあっせん